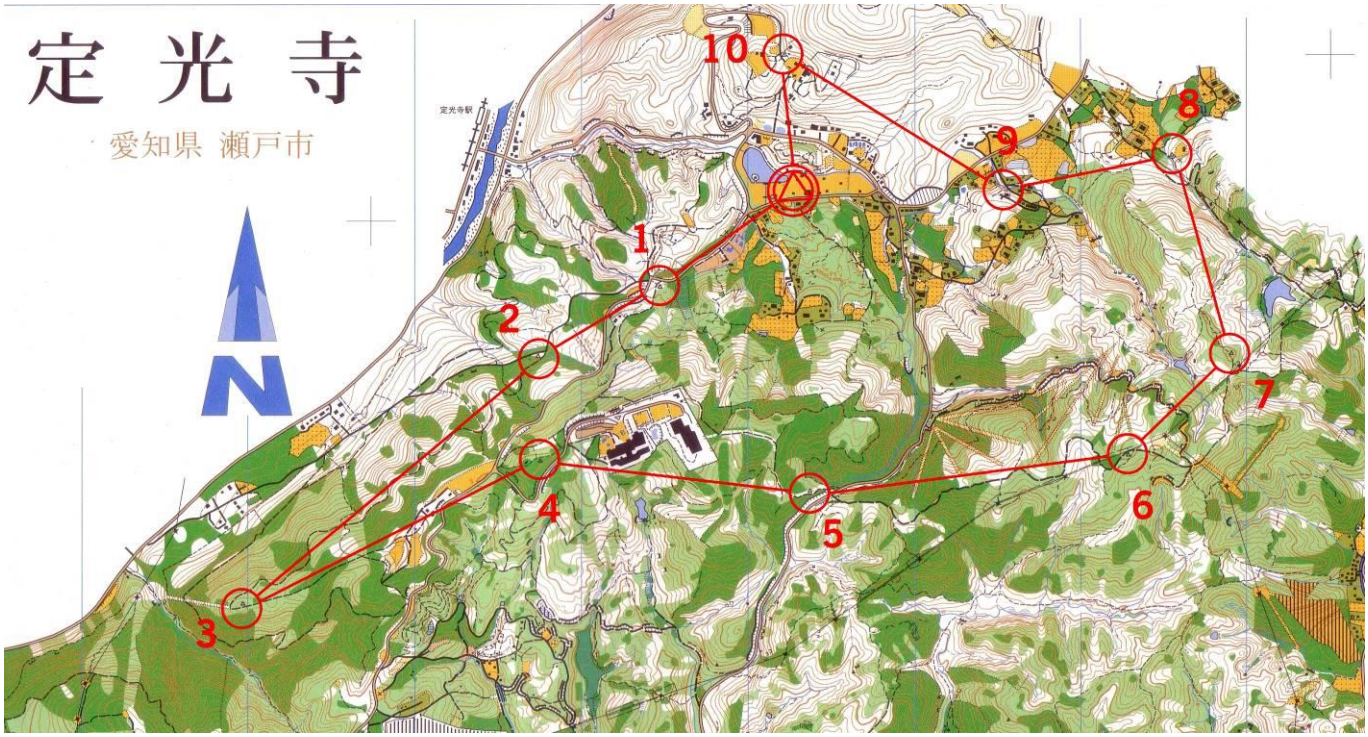
パーマネント
コース情報

初夏のきもちよさ、そのまま

「定光寺」コース　愛知県

大高竜亮



１年を通じて体力作りに活用できる百点満点の好コース。

「定光寺」コース　愛知県 No.2
JOA公認 No.66　10km　10 ポスト

オリエンテーリング日和

全ての公認コースが廃止されることなく、今も開設され続けている愛知県。山間コースあり、平野コースあり、史跡めぐりコースあり、公園内コースあり、市街地コースありと、10 コースがいずれも個性豊かな表情を見せてくれています。

県内で２番目に誕生した定光寺コースは、尾張三山コースと並び、山間コースのモデル的な存在として長年親しまれています。

私の初挑戦は 1990 年。四半世紀ぶりの再訪になります。記憶をたどると、当日は朝から悪天候。中央本線の電車が高蔵寺から土岐川に沿って渓谷に入るにつれ、低い雲が立ち込めてきます。踏破を敢行したものの、終始深い霧に包まれ、数メートル先しか見通せない最悪のコンディションが回復しないまま終了。本来の山の楽しみを味わうことなく心残りな１日となっていました。

今回はそんな思い出を一掃するような爽快な晴天に恵まれた、まさにオリエンテーリング日和です。新幹線で名古屋に降り立ち、JR の在来線で大曽根駅から名鉄瀬戸線に乗り換えます。

スタート地点はJR中央本線定光寺駅から徒歩 20 分のところですが、地図の取扱所である瀬戸市交流学び課スポーツ係のある瀬戸市体育館は名鉄瀬戸市駅が最寄りです。駅から北に 1.7km 地点にある市民体育館までは市民公園を通るバスもあるようですが、本数も少ないためタクシーを利用します。代金はちょうど 1,000 円。体育館の入口すぐのところに瀬戸市交流学び課スポーツ係の表示があり、マップを求めると待つことなく取り出してきてくれます。こうしたスムーズな対応も、利用者にとってはありがたいものです。帰りは 20 分ほど歩いて駅まで戻り、愛知環状鉄道の新瀬戸駅から高蔵寺経由で定光寺駅まで向かいます。

渓谷を見下ろす山肌に張りつくように建造されている定光寺駅から城嶺橋を利用して土岐川の対岸に渡り、東にある定光寺公園を目指します。正伝池から流れ出る小川に沿って北に車道、南に遊歩道が通じています。よく整備された遊歩道で、ウォーミングアップには最適。初夏の日差しも遮ってくれて快適な道のりです。正伝池南側にある特別仕様の案内板は以前と変わらず堂々と直立しています。掲示されているマスターマップは継続的にメンテナンスが施されているようで、ポスト位置は鮮明。さらにルート上の問題点も加筆されていて、利用者に十分配慮されたものとなっています。平成 12 年３月作成の通行可能度入りのマップにコースを写し取り、13 時 48 分にスタートします。

メンテナンスはバッチリ

25 年前とすべてのポスト位置に変更がありません。定光寺自然休養林に整備されたハイキングコース主体に組まれているため、ハイカーとも頻繁に挨拶を交わしていきます。第１ポストは道路からわずかに小道を入った地点。

道からも容易に視認できます。90 年当時は全体的にポストの痛みが激しく、塗装がはがれ落ちて鉄板がむき出しになった状態のものが多く見受けられました。こうした問題も今は概ね解消されています。きれいなポストに出会い、管理をされている方々に頭の下がる思いです。

いったん道路に戻ってアスファルトの道を西に向かい、第２ポストもわずかに歩道に入った地点に設置されています。山道はここからが始まりです。

定光寺南線と名づけられた一本道の遊歩道をたどる第３ポストまでの区間は、心地よい木漏れ日を体に浴びながら森の空気を満喫できます。杉林の間からシダが勢いよく群生し、まるで道行くハイカーに手を差し伸べているかのよう。等高線に沿った緩やかな道のヘアピンカーブを過ぎたところが第３ポスト。周囲が整地されたため、小道北側の見上げる位置にあったポストは南側に移されています。

シダのお出迎え

ここから道が拡張され、未舗装ながら車も通行でき、カーブミラーまで設置されています。さらに進むと、車椅子でも森林を楽しめる施設という林内回廊と称された木製の通路が整備されています。続けて現れる建物は森林交流館。林業や木材に関する展示があり、駐車場にはかつて木曽森林鉄道で活躍していたディーゼル機関車が展示されています。扇状に広がった階段をのぼり、標高 253mの高根山のピークをわずかに過ぎたところに一際新しい第４ポストが待っています。

道路に下って、目の前に現れる建物は中小企業大学校瀬戸校。中小企業の経営者、後継者、管理者等を対象にした研修機関です。金網の合間にひっそりと口を開ける東海自然歩道の入口を下ると、道幅の広い歩道が続いています。丸太の階段も整えられ、完璧なコンディションでハイカーを迎えてくれる遊歩道です。道路に差し掛かる直前の下り坂の脇に、第５ポストが以前と同じ佇まいで現れます。

大洞峠越える道路をまたぐ大光橋を渡り、後半戦も東海自然歩道を進んでいきます。現在位置を確認するのに心強い味方である送電線が寄り添ってくると、山星山の山頂に到着。ポストも同時に発見できます。

山星山の第６ポスト

次の第７ポストはやや難度が高くなっています。尾根伝いの遊歩道を行けばポスト手前までは導いてくれるのですが、ポストのある小道の入口が不明瞭であることと、入口付近に地図には記載のない送電線の鉄塔が存在することで、現在位置を見失ったような感覚に陥ります。頭の中に疑問符が浮かんだまま、鉄塔の手前から北に入っていくと小径が確認でき、ほどなくポストも現れ一安心です。

第８ポストへの最短路はこのまま小径をたどって尾根を進むルートか、途中の鞍部で右に下っていくルート。ただし、尾根のルートはマスターに不明瞭との記載があり、鞍部から下った先は道が途切れ、川を渡れる確証なし。さらに池の西に通じるルートも地図には記載があるものの、ここはマスターの注意書きに従って池の東側を回り込むことにします。

山火事注意の大きな横断幕の張られた宮刈峠を経由して幅の広い道を下り気味に進んでいきます。小川に沿って通じている道が北側に大きく膨らんだのち、川を渡る手前でやや藪の濃い小径を選んで第８ポストのある神明神社の鳥居前に到達します。

山間部はここで終了。第９ポストは山を抜けるルートも存在しますが、季節を考慮して道を回ります。出戻りとなるアプローチでポストに続く小道の前までやってくると、竹林の奥に紅白の姿が確認できます。マスターに記載の注意事項ではポスト付近の足場が悪く、道から覗き込むことを推奨されていますが、近づくことに特に大きな問題はありません。ただし、25 年前と比べるとやや荒れた印象は否めません。

最終ポストのある定光寺へは最後にもうひと登り待ち構えています。道路を歩いて参道の入口まで来ると「徒歩 10 分、階段 165 段」という看板が迎えてくれます。石碑に刻まれた「尾藩祖廟」の文字は定光寺に尾張藩初代藩主徳川義直が祀られていることを示しています。瀬戸市の文化財に指定されている直入橋を渡り、石段へ。比較的緩やかな傾斜のため、思いのほか息もあがらず登り切り、山門から本堂に到着します。参拝を済ませ、左手に登った地点にあるポストを確認します。徳川義直公廟所である源敬公廟の参拝時間は 16 時半で終了していたため、御本尊地蔵菩薩の御朱印だけお願いしてゴールに向かいます。

定光寺本堂

石段を下り、巨大目玉を両手で抱え持つ現代アートを横目に正伝池の北側に到達。ぐるりと池を回り込んで 17 時３分過ぎにゴールします。３時間 15 分の所要時間でした。

１年を通じて体力作りに活用できる百点満点の好コース。ファン拡大の役目を十分担えるポテンシャルを秘めています。

（2015 年 6 月 13 日 踏破）